

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1170900359		
法人名	株式会社 サンセット・シニアーズ		
事業所名	グループホームれんげ荘		
所在地	埼玉県久喜市久喜東2-35-5 M&Mビル2F		
自己評価作成日	平成26年6月2日	評価結果市町村受理日	平成26年9月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&amp;JigyosvCd=1170900359-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&amp;JigyosvCd=1170900359-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9-103		
訪問調査日	平成26年6月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

平成23年3月27日より、前住所地より徒歩3分のところのM&Mビルに移転。小規模多機能型居宅介護事業所併設。同ビル内に鍼灸マッサージ治療院開設されている。また、同ビルは外壁はもとより、全館(壁・床・天井)に抗菌・抗カビ・防臭・防汚に優れたGEOTECT(ジオテクト・SIAAマーク取得)により、処理されており、感染症予防・衛生管理に優れた施設となっています。駅前通に面しており、駅より徒歩10分と利便性がよく、また、駐車場も広くなり、ご利用者様のご家族や知人の方々が面会に来ていただきやすくなりました。地域の夏祭り(提灯祭り)は盛大でにぎやかです。毎年、ご利用者様と出かけるのが楽しみとなっています。昨年は急な雷雨で見られなかったのですが、今年はぜひみんなで楽しみたいと思っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

●法人として地域との交流が積極的に行われており、地域からの支援が安定した運営基盤に繋がっている。長年の地域および福祉への貢献が実を結んでいる。  
 ●虐待や身体拘束の廃止について研修等の実施がなされているほか、本年度より外部の委員を含めた権利擁護・虐待防止委員会を設置している。積極的かつ内輪で完結しない取り組みは多くの成果をもたらすものと期待される。  
 ●利用者への聞き取り・家族へのアンケートが実施されており、その結果をサービスに反映させるべく取り組んでいる。また職員からも提案がしやすいよう工夫した取り組みがなされている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、施設内の見える所へ掲示してある。毎朝、唱和している。認知症介護の3原則に基づき、介護をおこなっている。	運営理念・認知症介護3原則を掲示し、ホームの理念の周知に努めている。細かなケア方法の模索や職員のケア方法のチェックに注力しながら運営が推進されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の提灯祭りや自治会の祭りに参加している。近くに散歩に出かけると声をかけていただいたりしている。運動会には幼稚園児やその親と交流がある。	自治会や幼稚園との交流は催し物等を通して深められている。数年前の移転後も近隣の方との親交が温められており、安定した運営の基盤となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で参加する地域の人や民生委員の質問にアドバイスをしている。道路で歩いているお年寄りを見かけた場合、交差点を安全に渡れるように見守りをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催している。会議に利用者全員が毎回参加している。サーカスが開催された時、ご家族の賛同を得て一緒に観覧するなど実現することができた。	民生委員・区長・地域包括支援センター・家族の方々が参加し、定期で開催がなされている。活動報告や意見交換のほか、介護に関する情報提供などもなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二ヶ月に一回運営推進会議の開催を市の介護福祉課にお知らせし、介護福祉課の参加をお願いし、できるだけ運営推進会議に来ていただけるように働きかけている。	運営推進会議出席へのお願いや各種手続きのため窓口に訪問し、関係の構築に努めている。また市からは研修の案内や感染症の注意喚起などの情報をもらうなど双方向での連携がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護・虐待防止委員会を設置して取り組んでいる。「身体拘束排除に取り組む」を掲示しマニュアルなどで研修をしている。	禁止行為の掲示・マニュアルの策定がなされており、高齢者虐待および身体拘束の廃止の研修実施を通して職員への周知に取り組んでいる。	本年度より各種専門家による外部委員参加のもと権利擁護・虐待防止委員会が設置されている。新たな試みが定着し、サービス向上に繋がる事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護・虐待防止委員会を設置し、虐待防止委員(民間の有識者11名)を委員として取り組んでいる。職員の心理カウンセリング(臨床心理士)を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について4/16にスタッフ全員で勉強会を行った。権利擁護・虐待防止委員会を設置し、活用できるようにした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学していただき、説明をしている。十分に納得していただき同意を得たうえで署名捺印をいただき契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族も参加してもらっている。毎年、満足度アンケートを実施している。利用者の希望を反映して、毎月行事食を企画している。	家族へのアンケートと本人への聞き取り調査を実施しており、利用者意向の把握に対して積極的な取り組みが組織的になされている。また結果の反映にも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の運営会議の前にミーティングをして、職員の意見を聞くようにしている。月一回、25日の従業員全体会議において、職員個々の意見を本社へ訴える機会がある。	職員会議においては利用者のケア方法等について話し合いがなされている。また職員の要望も言いやすいよう工夫された取り組みがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社合同のイベントの際には、れんげ荘も各職員が役割分担を決め張りきる。日常的には、社会保険労務士による雇用について話を聞く機会を作る。臨床心理士のカウンセリングが社内で月一回設けてあり、誰でも自由にカウンセリングを受けることができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で実施する新人研修に参加する。また希望者は初任者研修等を受講する際に、シフト上の便宜をはかっている。地域で開催している研修案内により研修に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム杉戸と交換介護研修をおこなった。従業員会議での困難事例について他の従業員の意見を聞くなどしている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当のケアマネジャーとサービスの具体的な方法などについて話し合う。介護計画と違うことがあった場合、計画作成担当者へ報告し、対応についてミーティングし介護計画に盛り込む。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当の介護計画に沿って、家族に説明をしている。その中に家族の困っていること、不安なこと、要望などを盛り込んで、家族と一緒に介護がおこなえるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当の介護計画に沿って家族、職員と話し合ってサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたむ、おしぼりをたたむ、など利用者さんと一緒に作業している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院時に家族が本人とともに出かけることがあり、本人の嬉しい笑顔と家族の嬉しい笑顔を職員は見送って、病院から帰ってきたら、その労をねぎらって家族の絆を支えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人から面会したいと利用者さんへ電話があり、対応している。	家族や友人と電話がゆっくりできるよう配慮した取り組みがなされている。法人内の以前通っていたデイサービスを訪ねるなど関係継続に対しても支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルで互いの交流ができるように職員が仲を取り持っている。利用者さんのお誕生会を設けている。また気の合った人同士を相席にするなど工夫している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者さんのご家族がみえ、退去後の様子を知らせてくれた。ここで生活していればよかった、との言葉をいただいた。年賀状、暑中見舞いを毎年送っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当は、思いや意向を把握し介護計画に盛り込んでいる。そうした中で表情や会話に耳を傾け、アセスメントとして記録し、日常のサービスへのヒントにしている。	アセスメントとモニタリングが実施されている。ベテランの職員による丁寧な声掛けにより自然なかたちで意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	計画作成担当は生活歴についてアセスメントし、介護計画に盛り込み、職員と共有し日常の介護に活かすように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職員は、利用者一人ひとりについて日々の状況を介護記録している。介護記録の中から習慣や本人の特徴を見出し、職員間でミーティングをして、継続的なよりよい介護に活かせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師、看護師、計画作成担当者、介護職員と話し合い、意見やアイデアを反映している。	担当者会議や職員会議での個別のカンファレンスにより課題を抽出し、ケアプランの策定がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の日々の様子、ならびにケアの実際について個別記録に記入し、職員間で目を通しあって共有している。定期的に計画作成担当と計画作成の内容についてミーティングし、介護計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援、運営推進会議への参加、通院の同行、運動会への参加、久喜市の提灯祭りへの参加、クリスマス会への参加、行事食の献立・調理を管理栄養士に毎月1回頼んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護課の方との面接をしたり、往診の医師の診察を受けたり、訪問歯科の診療を受けたり、口内の清掃を歯科衛生士に受けたり、インフルエンザの接種を受けにクリニックに通ったりして、安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により通院を支援している。受診時には本人の様子を伝えている。	日常より医師に伝えなければならないことを記録しておき、協力病院からの往診やかかりつけ医への通院の際に報告がなされている。また検査結果や日常の様子を家族に伝えるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違う利用者さんの様子があった場合、介護職員は看護職員に伝えている。その上で看護職から受診の必要性を指示された場合、家族に連絡をとるなどしてかかりつけ医等へ受診支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーなどを提供している。退院時には診療情報提供書を主治医宛にもらっている。看護サマリーをれんげ荘はもらっている。看護サマリーを看護職員と共有し、退院後のれんげ荘の生活管理に活かしている。介護職員は、申し送り・ミーティングなどで情報を共有するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期介護においては、主治医の診断を基に終末期ケアをおこなうことがある。水分摂取量や排泄量を計測し24時間トータルで本人管理を看護職員と共に管理している。また、遭遇する終末期突然死の可能性などご家族、職員等に周知し、介護に取り組んでいる。(場合によっては、救急車で適切な病院への搬送を含む)	入居時の契約の際に重度化と終末期のケアに関して説明と同意がなされている。主治医の意見を聞きながらホーム全体で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルをが作られている。また、AEDも設置している。使用方法等も消防訓練の際に消防署の方からご指導いただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、防災マニュアル等を市に届けている。地域には久喜東のこの場所に介護施設があることを看板その他で表現している。区長や民生委員等、当場所に介護施設があることをほとんどの住民が知っている。久喜東救急隊もれんげ荘が二階にあることを周知しており、救急車を呼ぶとはしご車が一緒に来る。	定期で避難訓練が実施されている。消防署にも施設の特徴を伝え、万一の事態に備えている。備蓄や地域からの支援についても思案している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止委員会や接遇マナーにて人格の尊重を学びながら言葉かけ、対応している。他の利用者さんのいる前でその利用者さんの尊厳を傷つけるような名前呼び捨てや「早くしてください」など人格を傷つけるような声かけをしないようにしている。	年度において接遇・個人情報・プライバシーの研修が計画され、実施されている。声掛けの方法についても適切になるよう指導に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に入浴の希望を聞き「今日は入浴をしたくない」と答える利用者があった場合など、時間をおき職員を変え、場面を変え、別な場面で声かけをして自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望にて昼食時間をずらしたり、その日の日課についても本人の希望を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、起床する時に「今日はお洋服にしますか」と声かけをしている。本人の気に入る服にしている。時には「今日はこの服でおしゃれにしよう」と声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月一回ご利用者から献立の希望を取り、行事食を企画し、サンドウィッチ等を職員と一緒に作った。また片づけを一緒にしている。	一人ひとりにあわせた形態やペースで支援がなされている。夏場の水分補給には特に注意がなされており、定期でのチェックがなされている。	家族への献立表の送付を検討しており、実現により一層家族からの理解が深まることが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食事を提供している。食事摂取量・水分摂取量を記録している。体重測定をし増減を管理している。排便が何日に一度あるかも管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本町歯科より口腔ケアを受け、歯科衛生士よりゴックン体操や嚥下体操を指導していただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記入し、それを把握しトイレでの排泄の支援をしている。	日々の排せつの記録がなされており、声掛け等に配慮しながら支援がなされている。便秘の予防にも配慮し、ヨーグルトの提供や水分補給がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	れんげ荘では、おやつにヨーグルトを食べてもらい、自然の排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿って入浴を行っている。	健康状態と転倒予防に配慮しながら入浴支援に努めている。職員配置を考慮し、安全かつ快適な入浴となるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏場は4時間おきに各室の室温・湿度の管理表を記録し、本社に毎日夏場は報告している。同時に本人の体温管理をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無いように個々に名前を記入している。副作用の症状と思われることがあった場合、看護職に報告している。看護職は主治医に報告するなどの指示を出し、通院し主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	管理栄養士が行事食を計画し、それを楽しみにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩の声かけをおこなっている。サーカスやカラオケなど希望を取り入れながら出かけている。	併設の小規模多機能型居宅介護や法人内の他施設と合同で外出やカラオケなどの行事が楽しまれている。近隣への散歩や花見なども実施されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在れんげ荘では、個人でお金を使える利用者は無いが、家族から小遣いを預かる場合には、小遣い帳をつけてお金の管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で家族への電話などを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温チェック表、季節に合わせた飾りつけをしている。	廊下やトイレも十分なスペースが確保されており、快適な生活が送ることができるよう室温や採光に配慮がなされている。花や絵を飾るなど家庭的な雰囲気をつくるよう継続して取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士一緒に居室に入り、会話したりテレビを楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのタンスを持ち込んだり、仏壇など思い思いの物を持ち込んでいる。	タンス、ソファ、仏壇、テレビなどが持ち込まれている。家具の配置なども一人ひとり考慮し、すぐになじんでもらえるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに近い所の居室希望を受け入れたり、夜間安心してトイレを使用できるように明かりを点けたままにし、支援をしている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	本年度より各種専門家による外部委員参加のもと権利擁護・虐待防止委員会が設置されている。新たな試みが定着し、サービス向上に繋がることが期待される。	権利擁護・虐待防止委員会を継続していること、権利擁護とは何か、普段当たり前に行っていることが、虐待の温床となっていないか、常に確認し、全従業員の理解をふかめ、介護のあり方の中心となるようにしていく。	社内外の研修や勉強会へ積極的に参加するとともに、実際の介護サービスの現場に他の部署の職員がどのようなサービスをどのように提供しているかを知るとともに疑問に思った点等を記録し、確認し、委員会に報告し、改善を検討する。	12ヶ月
2	40	家族への献立表の送付を検討しており、実現により一層家族からの理解が深まることが期待される。	どんなメニューの食事をどのような形(粗刻みや細かい刻みなど)で、どの位召し上がっていただいているのか、食事が楽しみとなっているのか、再点検し、ご家族にもっとご紹介し、食べることの大切さをご利用者様・ご家族・職員と一緒に考え、よりよいものにしていく。	普段どんなメニューを召し上がっているのか、居間にメニュー表を掲示するだけでなく、ご家族にメニュー表を送付するなどし、メニューやおやつの内容をご確認いただき、意見をいただくなどし、栄養バランスや咀嚼能力の維持だけでなく、楽しみの部分(現在、誕生会や行事の際にはご利用者様からのリクエストをいただき、企画している)や費用面(H26.4消費税増税時料金改定なし)も含め、運営推進会議の場でも検討していく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。